

現在、国内外で、様々な社会情勢が私たちの目の前に押し寄せています。

このような時、私はよく常不輕菩薩様の話をさせていただきます。

私たちは常不輕菩薩様の「信心堅固」のように、教えを頑なに信じ、守って突き進んでいかなければならないと教わっています。

そして、会主さまも大導師さまは、大変信心の厚い方でありましたが、お二方はそれと共に、その時の世の中の状況を見ながら、臨機応変に変化をされていました。

会主さまが一日に何回も三部経をあげられていると仰ったことがあり、それを聞かれた当時の信者さんは、自分自身も一日に何度もあげられたという方がいらっしゃいました。

それは尊い事ですが、会主さまが「皆私の真似をする事はいいいですが、私は私の修行なのです。それを信者さんに強要したことはないですよ」と仰っておりました。ここはとても大切なことです。

私たちは、人と自分を比べてしまいます。

それは私たちの持っている業障によるものですが、法はそれではいけません。人にはそれぞれの修行があるのです。

法華経は比較してはならない、皆平等であり、皆佛さまを礼拝でき、そして自分も佛さまになれるという教えなのです。

家族の中でも、夫婦間、親子間を比較してしまいがちです。

会主さまがよく「夫婦でも垣根があります。一番良くないのはその相手の垣根を越えてまで中に入ってしまう事です」とご指導をされていましたが、これは人というのは皆それぞれ違うという事を基本に、ご指導を下さった尊い教えであります。

私がさせて頂いている個人指導は、日にちが決まってからその方を思って念願をさせて頂きます。

すると念願のお陰さまで、垣根を越えなくて済むのです。

そして相手がこちらの垣根を越えて入ってきて下さるのです。

皆さんが私の垣根を越えて入って来て頂くということは、出家である私の使命であり、義務であります。

ですから支部長さん方もぜひ一緒に歩んでください。

一度ご縁のある方は、会主さまの子たちです。

音信不通になった信者さんも諦めずに、この素晴らしい法の家にお呼びしましょう。

今日から、共にその修行をお願いいたします。